

公益社団法人 埼玉県理学療法士会 令和4年度定時総会議事録

1. 開催日時 令和4年6月19日(日)13時～15時30分
2. 開催場所：ウェスタ川越 多目的ホールB,C,D(埼玉県川越市新宿町1-17-17)
※インターネット中継あり
3. 理事・監事の数及び出席理事監事の数
 - (1) 理事数 19名、監事 2名
 - (2) 出席理事数 19名(内1名インターネット参加)
出席監事数 2名
4. 司会 水田宗達(副会長)
5. 定足数報告(会員数及び出席会員数)
 - (1) 会員総数：5,255名(令和4年6月1日現在)
 - (2) 出席会員数：3,549名(議決権行使数：3,525名,会場参加数：24名)
※インターネット参加120名
6. 開会の辞 渡邊雅恵(副会長)
7. 会長挨拶 南本浩之
8. 来賓挨拶 斉藤秀之(日本理学療法士協会 会長) ※インターネット中継
9. 特別講演
理学療法について、今、国政で話されていること
講師：日本理学療法士協会理事 参議院議員 小川克巳 先生
10. 議決事項
 - (1) 第1号議案
 - 1) 令和3年度事業報告並びに令和3年度貸借対照表、損益計算書、財産目録の承認を求める件
 - 2) 令和3年度監査報告
 - (2) 第2号議案
令和4年度事業計画並びに予算案の承認を求める件
11. 議長団選出の経過
 - (1) 定款に定めた定足数の出席があったことを司会者 水田宗達氏が報告した。議長・副議長の選出について一同に諮ったところ、会場より執行部一任の提案がなされ、議長・副議長が選任された。
議長：山田隆介氏(戸田中央メディカルケアグループ本部)
副議長：原和帆氏(西武川越病院)
 - (2) 議長により書記が選任された。
書記：吉澤博之氏(医療法人尚寿会 メディカルデイ つむぎ)
遠藤智之氏(大生水野クリニック)
12. 議事の詳細
 - (1) 第1号議案
 - 1) 令和3年度事業報告並びに令和3年度貸借対照表、損益計算書、財産目録の承認を求める件

①会長より総括が報告された。

昨年度は、このコロナ禍において、定款にある「理学療法士の人格、倫理及び学術技能を研鑽し、理学療法の普及向上を図り、以って埼玉県民の医療・保健・福祉の増進に寄与することを目的とする」をWebでの活動にて積極的に行った。県民に対する啓発事業は、事業局の取り組みにて他職種向けにWeb研修会を開催、また広報局において広報誌や動画配信を使用し啓発活動に力を注いだ。教育・研修・研究推進活動における理学療法の質向上や地域包括ケアの活躍促進として、会員の皆様に有益な情報を提供できるようWebによる研修会を開催した。また、令和4年度から変更される生涯学習制度に対応する体制づくりを行った。ブロック活動においてもWebを有効活用し研修活動とともに近隣機関の会員相互の交流活動を図った。第30回埼玉県理学療法学会は、記念学会として全会員の参加を無料とし、参加者数762名、延アクセス数7,662件と盛会に終わることが出来た。国際スポーツ競技対策委員会において、東京2020オリンピック・パラリンピックでボート競技のサポート依頼を受け事業を実施した。また、理学療法の専門性を強化する委員会として神経難病リハビリテーション推進委員会が立ち上がり、職域拡大の一步を踏み出すことが出来た。様々な事業を取り組んだが、今年度は会員費の一部を返金する決定を行ったという報告があった。

②各理事より各局、部、ブロックの令和3年度事業について報告された。

事務局：総務部は内外公文書内容確認・法人登記・県補助金申請書・決算書作成・県庁への電子申請業

務などを行った。庶務部は会員管理・代表者会議や役員連絡会議の運営を行った。総会運営部は令和3年度定時総会の準備・運営を行った。管財資料部は事務所内の資料整理・備品管理などを行った。厚生部は新人歓迎交流会を開催。会員交流会は中止となった。労務管理部は事務員に関する労務管理を行った。

財務局：出納部は各部局への事業費・運営費の管理などを行った。会費管理部は納入状況の把握など例年通り行った。財務渉外部は賛助会員に関する業務や税務に関する業務を行った。

事業局：高齢者福祉部・小児科福祉部・健康増進部・スポーツリハビリテーション推進部は公益事業として一般県民・多職種向けの事業を行った。新型コロナウイルス感染症により中止した事業もあるが、対面やWEBで講座や研修会を開催した。

学術局：編集部は雑誌「理学療法－臨床・研究・教育」発行業務を行った。研究推進部は対象研究課題および補助金額の事業を進めている。15題の申請のうち、7題が対象研究に決定があった。

教育局：前期研修部は新人を対象に研修を開催した。後期研修部は新生涯学習制度についての準備・運営を行った。認定・専門研修部は6回の研修会を開催した。登録・認定・専門理学療法士管理部は新生涯学習制度に伴い登録・認定・専門理学療法士管理を行った。臨床実習教育部は臨床実習研修の準備・開催をした。指定管理者研修部は埼玉県で独自の若手のリーダーを育成する研修を開催した。

広報局：広報誌編集部は広報誌・リーフレットの作成や発行を行った。インターネット管理部は埼玉県理学療法士会WEBサイトの作成・掲載・管理を行った。理学療法週間推進部はラジオ広告・理学療法週間啓発動画の作成を行った。

職能局：事業推進部はさいたま市との共同事業である「健康安全運転講座」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催体制の構築が困難であった。地域リハ相談窓口体制を構築に向けた議論を重ね、医療保険部・介護保険部・地域包括ケア推進部で研修会を開催した。医療保険部・介護保険部は研修会3回をオンライン・配信で開催した。地域包括推進リーダーは導入研修・ブラッシュアップ研修を開催しました。

東部ブロック：3つのエリア合わせて研修会8回・公開講座1回・交流会議1回を開催した。

西部ブロック：交流会議・公開講座（資料を公民館へ配布）・各エリアで研修会・症例検討会を開催した。

南部ブロック：各エリアで交流会・研修会・症例検討会を実施した。症例検討会では発表者が減少していることが課題となっている。ブロック公開講座「子どもロコモのチェックとトレーニング」を開催した。

北部ブロック：公開講座「人と医療・まちと医療の心地よい関係」・各エリアの研修会・症例検討会をオンラインで開催した。

③担当理事より各委員会の令和3年度事業について報告された。

委員会：ブロック連絡委員会：各ブロック活動の現状・課題などの情報共有や施設間ネットワーク構築の情報共有・検討を行った。国際スポーツ競技対策委員は東京アジア・オセアニア大陸予選ボート競技大会や東京2020オリンピック・パラリンピックボート競技大会のサポート・応急処置・搬送・テーピングなどを実施した。組織運営委員会：財政基盤検討委員会は令和4年度予算案を検討・作成した。表彰委員会は関係各所との情報収集を行い、推薦に係る書類の取りまとめを行った。（公衆衛生事業功労者

知事表彰・公衆衛生事業功労者（財）日本公衆衛生協会会長表彰・日本理学療法士協会賞・埼玉県理学療法士会表彰規定に基づく功労賞）組織検討委員会は理事枠の増員における組織のあり方について・神経難病リハビリテーション推進委員会の設置を行った。運営基盤検討委員会は来年度における重点項目や中長期計画の作成を行った。選挙管理委員会は役員候補者選挙を開催した。令和3年度日本理学療法士協会代議員選挙管理委員会活動も行った。創立50周年記念式典準備委員会は創立50周年記念式典の準備、記念誌の発行・準備を行った。

専門性委員会：埼玉県理学療法学会評議員会は年4回の学会評議員会を開催した。第30回埼玉県理学療法学会準備委員会は学会を令和4年1月23日（日）～2月6日（日）で開催した。第31回埼玉県理学療法学会準備委員会は2023年1月22日にウエスタ川越にて開催予定となっている。がんリハビリテーション推進委員会は啓発活動を中心に行った。糖尿病対策委員会は2回の研修会をWEBにて開催した。装具療法地域連携対策委員会は講習会・研修会をWEBにて開催した。学校保健・特別支援教育推進委員会は主にアンケートを中心に実態調査を行った。

職能委員会：新分野開拓委員会は神経難病リハビリテーション推進委員会の立ち上げと運営に関する検討を行った。訪問リハビリテーション振興委員会は理学療法士会研修会・実務者研修会・活動内容報告を行った。災害対策委員会はJRAT研修会参加・JIMTEF研修会参加、関係他団体との関係作り、災害対策マニュアル・フローチャートの整備、災害時の連絡方法の活用、啓蒙活動を行った。職業倫理委員会は協会との連携・職業倫理違反についての情報収集・職業倫理研修会を開催した。10年後の理学療法を考える委員会は理学療法に関する政策検討・政策を推進するための政治活動、及び理学療法における課題収集・調査等を行った。新型コロナウイルス感染症における在り方検討委員会は新型コロナウイルス感染症に関する研修会事業・ニューノーマル時代を見据えた新たな事業の検討に関する研修会事業・メンタル相談窓口の検討・新型コロナウイルス感染症対策の研修会マニュアルの作成を行った。第42回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員会は第42回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員会の開催（WEB会議5回）・第40回関東甲信越ブロック理学療法士学会視察（新潟県）と情報交換・関東甲信越ブロック連絡会議（WEBにて2回）・第41回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員会（東京）との情報交換を行った。

《令和3年度決算》

総会資料に基づき、財務局長より令和3年度の決算として収支および支出の報告がされた。貸借対照表について正味財産合計22,755,705円との報告があった。正味財産増減計算書から経営収益、経常費用について説明があった。財務諸表に対する注記では特定資産の積立金の報告があった。

2) 令和3年度監査報告

議長が本件に関し、監事に説明を求め、清宮清美氏より令和3年度監査結果が報告された。事業については理事会や関係書類を精査し執行状況の妥当性を検討した。会計は帳簿や関係書類の閲覧し会計報告書を検討した。監査結果について、事業内容は適正であり各事業は円滑に実施され、理事の職務執行に関して不正行為や規約に違反する重大な事実はないことを認める。また新型コロナウイルス感染症対策のため、対面を避けWEBを活用するなど、適切に行われたものと認める。決算に関して、収益計算書・貸借対照表は帳票等の記載金額と一致し、公益社団法人埼玉県理学療法士会の収支および財産の状況を正しく示しているものと認めると報告があった。事業を精査し対策を講ずる必要がある項目として①会費未納のままの退会者②計画変更に伴う次年度事業計画が報告された。

《第1号議案についての質疑応答》

会員より、昨年度、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、埼玉県士会の予算1000万程が施行出来なかったことについて。事業推進・会員の利益に関しての影響はどのように考えているかとの質問があった。

執行部・南本浩之氏が回答。新型コロナウイルス感染対策で対面研修・技術研修ができなかった。現在は新たな基準を作っているが、まだまだ終息しておらず厳しい状況である。昨年度の余剰金を繰越金・目的積立金に組み替えていくのが通常だが、今回は会費を会員の方へ還元していくことを決定している。令和4年度は感染状況を見ながら、多くの会員の方に情報提供できるように研修会の開催をしていきたいとの説明があった。

第1号議案

1) 令和3年度事業報告並びに令和3年度貸借対照表、損益計算書、財産目録の承認を求める件

2) 令和3年度監査報告

に関して挙手にて承認の是非を諮り、議決権行使書を含めた3,532名の賛成が得られた。定款第19条1項に基づき総会員数の過半数(5,255名中3,532名)の賛成を得たため、第1号議案は可決承認された。

(2) 第2号議案

令和4年度事業計画並びに予算案の承認を求める件

① 総会資料に基づき、会長より総括が説明なされた。

新型コロナウイルス感染状況を考慮し今までの活動を継続できるようICTを活用し会員の技術・質向上に努める。コロナ感染症が収束してもハイブリット型の研修が開催できるよう準備を進めていく。今後も会員から士会活動に対して意見徴収の機会を増やし重点課題の立案を図り士会活動につなげる仕組みの強化をしていくとの説明があった。

② 各理事より各局、部、ブロックの令和4年度事業計画について説明がなされた。

事務局：各部とも大きな事業の変更追加なし。昨年度同様の事業を行っていくと説明があった。

財務局：例年通り支出、収入の管理、管理費納入手続きの促進等、源泉徴収の納付などの事業をおこなってくと説明があった。

事業局：昨年度事業と大きな変更なし。感染対策のためにオンラインでの研修会や感染状況を鑑みて感染対策を行いながら小員数で研修会を実施していく。各部、他団体と共同が多いため協働しながら進めていくと説明があった。

学術局：理学療法編集部では昨年度に引き続き理学療法、臨床研究教育の編集に携わっていく。多くの方に論文を投稿していただくようアナウンスを進めていく。講座等も会員に有益な情報が提供できるよう検討していく。研究推進部では引き続き研究補助事業中心に活動していく。感染症により開催できていなかった研究推進事業を再開していくとの説明があった。

教育局：前期研修部では8月、12月に研修会及び交流会を予定。後研修部では4回の研修会を予定。認定・専門研修部では年4回、今後は運動器・内部障害・生活支援領域の研修会を予定している。

登録認定専門部では新生涯学習プログラム履修状況の追跡調査など行っていく。臨床実習教育部ではファシリテーター研修会3回、臨床教育研修会2回、養成校教員情報交換会を4回。指定管理者研修部では指定管理者研修会初級2回 管理者ネットワーク研修会3回予定しているとの報告があった。

広報局：理学療法週刊推進部はラジオでの啓発、大宮駅アルシェエキシビジョンを使用した啓発、ワンポイントトレーニングの紹介、エスカレーター条例の啓発、高校生進路相談、ポスターチラシ等で啓発活動をおこなってくと説明があった。

職能局：業務推進部ではさいたま市、ダイハツ自動車工場との連携事業を3社で協議を行っている。さらにダイハツ自動車工場と埼玉県理学療法士会の2社での連携事業も協議中。ケアラー支援を含めた理学療法士の役割を強化する体制作りを協議していくとの説明があった。医療保険部と介護保険部では保険の仕組みを理解する研修会、サービス内容を充実させる研修、繋がりを促進させる研修会をおこなっていく。地域包括ケア推進部では介護予防・地域ケア会議推進リーダー導入研修会、地域包括ケア実務者ブラッシュアップ研修会を予定していると説明があった。

東部ブロック：研修会8本、啓発4本、公開講座1本、交流会4本を行い4つの柱として横のつなが

りを強化、PTの質の向上、一般県民への啓発、我々の身分を守る活動を達成していくとの説明があった。

西部ブロック：交流会議を行いつながりの再強化を図っていく。公開講座対面での開催を予定しているが感染状況によりオンラインでの開催も検討している。症例検討は昨年度と同様の本数で対面またはオンラインで開催していくと説明があった。

南部ブロック：横の繋がりを深めることを目標にし、研修会、交流会、交流会議を各エリアで予定している。症例検討は疾患別に各エリアで分担して開催していく予定との報告があった。公開講座は脳卒中の病歴のある方から講演を予定しているとの説明があった。

北部ブロック：例年通り、昨年度と同様の事業をおこなっていく予定。地域リハビリテーションのネットワーク構築のために初めて交流会議を開催していくと報告があった。

③担当理事より各委員会の令和4年度事業計画について説明がなされた。

ブロック連絡委員会、国際スポーツ競技対策委員会、第42回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員会、組織運営委員会、専門性委員会、職能委員会について説明がなされた。

④総会資料に基づき、財務局長より令和4年度の予算案について説明がなされた

収入の部において、事業収入として日本理学療法士協会生涯学習制度変更に伴い新規事業として後期研修部研修会などが追加されていること、会収入、団体活動補助金、雑収入について、当期収入合計62,070,000円であることが説明された。支出において新規事業として神経難病リハビリテーションに関する活動費が加わったことや登録認定・専門理学療法士管理部の予算が加わったこと、顧問弁護士の費用が追加されたこと、昨年度と予算との差異が大きい事業について説明があり当期支出合計77,345,000円であることが説明された。

《第2号議案についての質疑応答》

会員より、昨年度15,000,000円の赤字に関して、3年後5年後の未来像に対して、どういった戦略的な投資してどういった未来があるのか。会員としてどこに期待したらいいのか。会員に対してどのようなことを求めているか質問があった。

執行部・南本浩之氏が回答。昨年度の赤字に関しては余剰金が出たため、会員管理により会員に還元する為、手数料などで赤字となっている。3年後5年後の埼玉県理学療法士会の発展・理学療法士の未来像について、中長期計画の立案・検討する取り組みを現在動いているところである。理学療法の専門性を高められるように支援できるように体制を整えている。例えば装具療法・糖尿病など研修会などをステップアップできる仕組み作りを進めているところである。今後の会員に求めていることに関して、組織力を高め一人一人が意見を持っていく。発言力を高めていき、実績を積み上げていくことが大切であると説明があった。

第2号議案

令和4年度事業計画並びに予算案の承認を求める件

に関して挙手にて承認の是非を諮り、議決権行使書を含めた3,530名の賛成が得られた。定款第19条1項に基づき総会員数の過半数(5,255名中3,530名)の賛成を得たため、第2号議案は可決承認された。

(3) その他

①質問・意見は時間の都合にて省略し、埼玉県理学療法士会のホームページよりお問合せ頂くよう説明があった。

13. 来賓挨拶 中谷元(衆議院議員)

以上をもって、議長は本会議のすべての議案が終了した旨を告げ、書記・議長・副議長を解任した。

14. 閉会の辞：原田慎一(副会長)

本会議の議事内容を明確にするために本会議事録を作成し、本会議の内容を証明するため議長および代表理事は、以下に署名捺印を行う。

以上

令和4年 6月 19日

公益社団法人 埼玉県理学療法士会 令和4年度定時総会

議長

代表理事